



## 2022年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年5月13日

上場会社名 ユナイテッドグロウ株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4486 URL http://www.ug-inc.net/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 須田 騎一郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理本部長 (氏名) 岡 美恵子 TEL 03 (5577) 2091  
 四半期報告書提出予定日 2022年5月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年12月期第1四半期の連結業績（2022年1月1日～2022年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年12月期第1四半期	565	15.7	90	27.7	90	27.9	66	33.3
2021年12月期第1四半期	488	18.4	70	11.5	70	11.6	49	19.7

(注) 包括利益 2022年12月期第1四半期 66百万円 (33.3%) 2021年12月期第1四半期 49百万円 (19.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年12月期第1四半期	17.77	16.75
2021年12月期第1四半期	13.57	12.56

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年12月期第1四半期	2,021	1,400	69.3
2021年12月期	2,109	1,379	65.4

(参考) 自己資本 2022年12月期第1四半期 1,400百万円 2021年12月期 1,379百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年12月期	—	0.00	—	12.00	12.00
2022年12月期	—	—	—	—	—
2022年12月期（予想）	—	0.00	—	14.00	14.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2022年12月期の連結業績予想（2022年1月1日～2022年12月31日）

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,368	14.1	307	6.3	307	4.5	224	13.1	60.34

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

当社は年次での業績管理を行っておりますので、第2四半期（累計）の連結業績予想の記載を省略しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年12月期 1 Q	3,717,200株	2021年12月期	3,717,200株
② 期末自己株式数	2022年12月期 1 Q	26株	2021年12月期	26株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年12月期 1 Q	3,717,200株	2021年12月期 1 Q	3,652,334株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料及び四半期決算説明会内容の入手方法）

当社は、2022年5月13日に四半期決算説明資料の動画配信を行う予定です。

その模様及び説明内容（音声）については、当日使用する四半期決算説明資料とともに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(会計方針の変更) .....	8
(追加情報) .....	8
(セグメント情報等) .....	9
(収益認識関係) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響の長期化による経済活動の停滞が続いており、ロシアのウクライナ軍事侵攻による社会情勢不安も加わって、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況の中、国内の企業活動においてはITの重要性や業務のIT化・デジタル化の流れがますます拡大している一方で、IT人材不足が慢性的に深刻な状況となっております。当社グループのインソーシング事業及びセキュリティ事業では、新規顧客からの引き合いが多い状況が継続しており、既存顧客においても案件の拡大・増加が堅調であったため、当第1四半期連結累計期間における売上高及び親会社株主に帰属する四半期純利益は良好に推移いたしました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高565,028千円（前年同四半期比15.7%増）、営業利益90,279千円（同27.7%増）、経常利益90,380千円（同27.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益66,054千円（同33.3%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

#### ① インソーシング事業

中堅・中小企業のコーポレートIT部門を対象とした人と知識をシェアする会員制の「シェアード社員サービス」を提供しております。

インソーシング事業では、機動力の高い少人数のユニット体制を継続しつつ、インソーシング事業部が主導するリファーマル採用（仲間を集める活動）の活性化を図りました。また、外部研修プログラムの活用により、シェアード社員のスキルの底上げやマネジメント力の向上を推進しております。

成長企業を中心に当社ウェブサイトからの新規顧客の引き合い件数、既存顧客案件の増加や拡大も堅調に推移した結果、会員数は632社（前年同四半期比62社増）、そのうち実働会員数は237社（同31社増）となりました。また、シェアード社員数は165人（同12人増）となり、シェアード社員の稼働1時間あたりの売上高は8,127円（同5.4%増）となっております。

この結果、当第1四半期連結累計期間においては、売上高526,328千円（前年同四半期比17.3%増）、セグメント利益220,629千円（同29.1%増）となりました。

#### ② セキュリティ事業

キャッシュレス事業者を対象に、データ保護対策のコンサルティングサービス及び教育・研修サービスを提供しております。

コンサルティングサービスでは、PCI DSS審査対応を年間で平準化して行うサブスクリプション型のサービス（オンクラウドレビュー）が堅調に推移いたしました。

この結果、当第1四半期連結累計期間においては、売上高38,700千円（前年同四半期比1.9%減）、セグメント利益5,931千円（同17.0%減）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は2,021,860千円となり、前連結会計年度末に比べ87,606千円減少いたしました。

流動資産については、前連結会計年度末に比べ85,335千円減少し、1,861,334千円となりました。これは主に、現金及び預金89,147千円の減少、その他流動資産4,241千円の増加によるものであります。

固定資産については、有形固定資産が84,272千円、無形固定資産が18,425千円、投資その他の資産が57,827千円となり、前連結会計年度末に比べ2,271千円減少し、160,525千円となりました。これは主に、ソフトウェア仮勘定7,920千円の増加、建物1,337千円、ソフトウェア1,183千円及び繰延税金資産6,716千円の減少によるものであります。

（負債）

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は620,931千円となり、前連結会計年度末に比べ109,055千円減少いたしました。

流動負債については、前連結会計年度末に比べ108,488千円減少し、601,014千円となりました。これは主に、未払金71,945千円、未払法人税等54,932千円及びその他流動負債18,248千円の減少、契約負債(前受金)30,479千円の増加によるものであります。

固定負債については、前連結会計年度末に比べ566千円減少し、19,917千円となりました。これは主に、資産除去債務7千円の増加、その他固定負債574千円の減少によるものであります。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は1,400,929千円となり、前連結会計年度末に比べ21,448千円増加いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益66,054千円の計上及び利益剰余金44,606千円の配当によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2022年2月14日の「2021年12月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,914,942	1,825,795
売掛金	14,472	14,084
貯蔵品	561	520
その他	16,692	20,934
流動資産合計	1,946,669	1,861,334
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	69,577	68,240
その他(純額)	16,986	16,032
有形固定資産合計	86,564	84,272
無形固定資産		
ソフトウェア	11,689	10,505
ソフトウェア仮勘定	—	7,920
無形固定資産合計	11,689	18,425
投資その他の資産		
繰延税金資産	13,715	6,998
その他	50,828	50,828
投資その他の資産合計	64,543	57,827
固定資産合計	162,797	160,525
資産合計	2,109,467	2,021,860

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	7,935	9,094
未払金	129,042	57,097
未払法人税等	79,169	24,236
前受金	404,308	—
契約負債	—	434,788
賞与引当金	—	5,000
その他	89,046	70,797
流動負債合計	709,503	601,014
固定負債		
資産除去債務	12,237	12,245
その他	8,246	7,671
固定負債合計	20,483	19,917
負債合計	729,986	620,931
純資産の部		
株主資本		
資本金	311,662	311,662
資本剰余金	290,807	290,807
利益剰余金	777,065	798,514
自己株式	△55	△55
株主資本合計	1,379,480	1,400,929
純資産合計	1,379,480	1,400,929
負債純資産合計	2,109,467	2,021,860

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
売上高	488,243	565,028
売上原価	254,100	278,299
売上総利益	234,142	286,729
販売費及び一般管理費	163,436	196,449
営業利益	70,705	90,279
営業外収益		
受取利息	6	8
物品売却益	—	128
その他	12	—
営業外収益合計	18	136
営業外費用		
支払利息	51	35
株式交付費	19	—
その他	0	—
営業外費用合計	71	35
経常利益	70,652	90,380
税金等調整前四半期純利益	70,652	90,380
法人税、住民税及び事業税	18,808	17,609
法人税等調整額	2,294	6,716
法人税等合計	21,102	24,325
四半期純利益	49,550	66,054
親会社株主に帰属する四半期純利益	49,550	66,054

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
四半期純利益	49,550	66,054
四半期包括利益	49,550	66,054
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	49,550	66,054

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。収益認識会計基準等の適用による会計処理の変更はなく、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金期首残高に与える影響はありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」に表示していた「前受金」は、当第1四半期連結会計期間より「契約負債」として表示しております。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第1四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しております。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、時価をもって四半期連結貸借対照表価額とする金融商品を保有しておらず、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(賞与引当金)

当第1四半期連結会計期間末においては賞与支給額が確定していないため、賞与支給見込額のうち、当第1四半期連結累計期間の負担額を賞与引当金として計上しております。

なお、前連結会計年度末においては、賞与支給確定額62,908千円を流動負債の未払金として計上しております。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	インソーシング 事業	セキュリティ 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	448,811	39,431	488,243	—	488,243
セグメント間の内部売上高 又は振替高	9,159	800	9,959	△9,959	—
計	457,971	40,231	498,202	△9,959	488,243
セグメント利益	170,875	7,147	178,023	△107,317	70,705

(注) 1. セグメント利益の調整額△107,317千円には、セグメント間取引消去△9,959千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△97,357千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	インソーシング 事業	セキュリティ 事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	526,328	38,700	565,028	—	565,028
外部顧客への売上高	526,328	38,700	565,028	—	565,028
セグメント間の内部売上高 又は振替高	7,767	—	7,767	△7,767	—
計	534,096	38,700	572,796	△7,767	565,028
セグメント利益	220,629	5,931	226,560	△136,281	90,279

(注) 1. セグメント利益の調整額△136,281千円には、セグメント間取引消去△7,767千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△128,513千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項 (セグメント情報等)」に記載のとおりであります。